

開講日	2018年春期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階 講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科・集中治療医学 教授 祖父江和哉 (いたみセンター センター長)		

科目概要 および 期待される 成果	医療の進歩とともに様々な疾患の生存率は向上してきている。一方で、日本においては国民の4人に1人は慢性的な痛みを抱えていることが明らかとなっている。慢性疼痛は、やる気を喪失させ、生活の質を低下させ、制酸の活動を阻害するため、社会的な問題である。慢性疼痛への対応は、薬物療法、神経ブロック、手術、理学療法、心理療法など多角的なアプローチが必要であり、個々に合わせた方法の選択が重要である。医療機関では、様々な慢性の痛みを抱えた患者が増加しており、医療従事者が慢性疼痛について理解していれば、より良い医療を提供できると考える。そこで本講座では、慢性疼痛の基礎から最新の治療まで幅広く解説し、慢性疼痛を理解できる医療人の育成を目的とする。		
目標とする 資格	特になし		

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	痛みに対するチーム医療	近年の慢性疼痛の治療は、集学的に多職種でアプローチすることが一般的となってきた。痛みに対するチーム医療のあり方を概説する。	4月11日	教授/センター長 祖父江和哉 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科・集中治療医学/いたみセンター
L-2	2	痛みの基本的知識の整理	有害な刺激から体を守るために痛みを感じることは必要である。そのために、侵害刺激の情報を末梢神経から脊髄に伝達し、最終的に脳で痛みとして認識するシステムが存在する。痛み情報の運搬、伝達、認識など痛み伝導システム異常により引き起こされる慢性痛のメカニズムを概説します。	4月18日	准教授/副センター長 杉浦健之 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科・集中治療医学/いたみセンター
L-3	3	痛みの分子・神経基盤と、その脳機能イメージングによる理解	痛みの分子・神経基盤を概説するとともに、「主観である」痛みを評価し、緩和するための方策について、近年の脳機能イメージング研究の成果を踏まえ議論したいと思います。	4月25日	教授 植木孝俊 名古屋市立大学大学院医学研究科 統合解剖学
L-4	4	痛みの評価法(体験型)	慢性痛では身体的、心理社会的な因子が相互に影響し、多方面での評価が必要です。講義では前半に様々な痛みの評価の方法を紹介します。後半に架空症例を用いて実際に痛みの評価を行うグループワークを予定しています。	5月9日	病院助教 浅井明倫 名古屋市立大学病院 麻酔科 臨床心理士 酒井美枝 名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-5	5	痛みの治療における漢方薬の活用	東洋医学的な痛みの原因を考える上で重要な寒熱(冷え・熱(炎症))や、気・血・水(患者の体を流れるエネルギー)の過不足、例:ストレス、体液分布異常、微小循環障害など)を解説し、それぞれの原因に対する代表的な漢方薬を紹介する。	5月16日	病院助教 加藤利奈 名古屋市立大学病院 麻酔科
L-6	6	薬物治療と依存(仮題)	薬物依存は米国などですでに大きな問題となっている。日本においても、オピオイドの適応拡大により使用頻度が増加している。薬物療法の重要性と危険性について講義する予定である。	5月23日	教授 山口重樹 獨協医科大学 麻酔科学
L-7	7	慢性疼痛の認知行動療法	認知行動療法はうつ病や不安症の治療法として確立されており、現在では保険請求も認められています。今回の講義では、慢性疼痛に対する認知行動療法の試みを脳科学との関連にも触れつつお話しさせていただきます。	5月30日	病院講師 小川成 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学
L-8	8	慢性疼痛の集学的診療における理学療法士の役割	慢性疼痛診療において、複数の専門家による集学的診療が有効とされており、この中で理学療法士は、運動療法と教育、行動学的マネジメントを組み合わせたりリハビリテーションを担う。本講義では、集学的診療における理学療法士の役割について概説する。	6月6日	理学療法士 井上雅之 愛知医科大学運動療育センター 学際的痛みセンター
L-9	9	慢性痛の新世代認知行動療法:アクセプタンス&コミットメント・セラピー(体験型)	慢性痛の臨床では「痛みを減らそうとするほど苦しみが増える」という矛盾に直面します。その矛盾に医学とは違う方向からアプローチするアクセプタンス&コミットメント・セラピーについて、体験型講義を行います。	6月13日	特任助教 近藤真前 名古屋市立大学病院 いたみセンター
L-10	10	疼痛への看護ケア	痛みを緩和するためには、痛みや鎮痛剤等を理解し適切に対処していく必要がありますが、その過程には心理社会的なバリアが存在します。疼痛緩和に関するバリアについて概説し、看護の視点から痛みのケアについて説明します。	6月20日	准教授 椋野香苗 名古屋市立大学看護学部
L-11	11	慢性疾患に対するマインドフルネス認知療法—精神科での試み—	マインドフルネス認知療法の基本的な考え方、プログラムの内容などを初めての方にも分かりやすく解説する。さらに、精神科で出会うことが多い慢性疾患(慢性うつ病)に対する試みも紹介する予定である。	6月27日	教授 家接哲次 名古屋経済大学大学院人間生活科学研究科 人間生活科学部
L-12	12	知ってもらいたい子どもの慢性痛の現状と必要な対応法	こどもの慢性痛は、医療従事者の疾患の認識不足から適切な痛みへの対応が遅れてきた領域です。今回は慢性痛患児に対する理解を深めて頂くために必要な情報と最近のトピックスに焦点を当てて解説します。	7月4日	診療教授 加藤実 日本大学医学部麻酔科学
L-13	13	腰痛へのアプローチ	腰痛疾患の原因は運動器学的疾患ばかりでなく、心理社会的要因などが加わり複雑な病態を呈することも稀ではない。腰痛を呈する運動器疾患を概説し、さらに心理社会的要因が加わった難治性腰痛症例を紹介する。また、腰痛に対する最新の整形外科的手術治療も紹介する。	7月11日	准教授/副センター長 水谷潤 名古屋市立大学大学院医学研究科 リハビリテーション科学/いたみセンター
L-14	14	腰痛への理学療法	腰痛に対するリハビリテーションに関して急性期、慢性期のそれぞれの病態に応じた考え方、取り組み方を概説しながら、難治性慢性疼痛の範疇に入るような腰痛疾患に対する最近のリハビリテーションの考え方をお話する予定である。	7月18日	理学療法士 吉戸菜摘 名古屋市立大学病院リハビリテーション科
L-15	15	顎顔面のいろいろな痛みについて	顎顔面領域の痛みについては口腔内外あるいは歯牙や骨などの硬組織や粘膜、皮膚などの軟組織と様々な部位がある。それぞれ代表的な痛みや原因、治療などをわかりやすく説明する。	7月25日	助教 加藤伸一郎 名古屋市立大学大学院医学研究科 口腔外科学